

令和7年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属幼稚園

## 1 附属幼稚園の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属幼稚園

### (2) 所在地

大阪府大阪市平野区流町2-1-79

### (3) 学級数・収容定員

6級(1学年2学級) 収容定員150人 (1学級30人 ただし3歳児は16人と14人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

139人 (男児71人 女児68人)

### (5) 教職員数

園長(併任) 1人、副園長 1人、主幹教諭 1人、教諭 5人、養護教諭 1人、非常勤講師 4人  
事務職員 1人、臨時用務員 1人、スクールカウンセラー 1人  
栄養士 1人、調理師 1人、調理員 1人

## 2 附属幼稚園の特徴

豊かな自然環境の中で身近な人々とのあたたかい触れ合いや、生き物たちとの日々の関わりを通して、やさしく、あたたかく、思いやる心が育つことを願っている。

幼稚園生活の主人公は幼児であり、幼児の思いや願いを大切に生活を中心としている。幼児は遊びを通して様々なことを学んでいる。遊びこそが幼児の生活そのものであり、今日の幼児の姿から明日の生活がつくり出されていく。常に幼児の今の姿を出発点として、個々の育ちや発達の状況、その時期にふさわしい遊び(生活)が展開されていくよう、努めている。

また、昭和23年より保護者手作り給食を実施しており、約70年間にわたって受け継がれている。子どもたちに手作りの温かいものを食べさせてあげたいという願いと共に、食の安全や衛生、アレルギー対応など、時代の変化に応じた給食作りを目指している。

## 3 附属幼稚園の役割

- (1) 学校教育法に基づく幼稚園教育を行う。
- (2) 幼稚園教育の理論と実践に関する研究を行う。
- (3) 本学学生の教育実習を行い、その指導を行う。
- (4) 地域社会における幼児教育の振興に寄与する。

#### 4 附属幼稚園の学校教育目標

「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」

○ 3歳児・・・喜んで幼稚園へ来る子ども

生後わずか3年しかたっていない子どもであるが、一人の人間としてすばらしい力を持ち、一人一人がその子らしさを秘めている時期である。この1年をゆったりと大好きな先生に寄り添い、自分の好きな遊びに没頭し、明日も大好きな幼稚園に行こうと思うことが、これからの保育年限における健やかな育ちを期待する上で何よりも大切なことであるとする。

○ 4歳児・・・友達を見つけて、幼稚園の生活を楽しむ子ども

友達の存在に心を揺り動かし、幼稚園では「いろいろな友達がいる」「一人より友達と一緒に生活が楽しい」「友達と関わり合って育つ」等の体験をしながら、幼稚園生活の楽しさを味わい、思う存分遊ぶ子どもに育つことを願っている。

○ 5歳児・・・友達と心を通わせ、様々な生活に熱中する子ども

心身ともにたくましく、知的好奇心もぐんと増す時期である。試行錯誤を繰り返しながら全力で幼稚園の様々な生活に熱中し、一人でも、みんなとでも「やったね」という成就感を味わい、友達と力を合わせて楽しい園生活をつくり出す子どもに育つことを願っている。

#### 5 附属幼稚園の学校教育計画

1 保育の質を向上するための研究活動の実施

研究テーマ「学びをつなぐ教育課程の創造～子どもと教師で共につくりだす生活～」

2 安全・安心な園づくり

3 開かれた園組織運営

4 教育実習の指導充実

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」		
学校教育計画	1 保育の質を向上するための研究活動の実施	研究テーマ	「学びをつなぐ教育課程の創造～子どもと教師で共につくりだす生活～」

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の姿から、教師は幼児の学びをどのように捉え、何を願っているのかを探る。</li> <li>・ 幼児の姿から、教育課程を期毎に見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の姿から学びの姿を捉えた。具体的には幼児の遊ぶ姿の写真を持ち寄ったり、園内研修会、事例検討会から保育を見る視点を探った。</li> <li>・ 1年間の研究のまとめを幼児教育関係者を対象とした研究発表会で報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園内研修会や実践事例を検討する中で、子どもと教師で共に生活をつくり出すために大切にしたい保育の視点を見出すことができた。また、それをもとに実践を繰り返し、各年齢毎にかもした雰囲気、かわりがうまれるきっかけ、学びの土台、援助について、整理することができた。</li> <li>・ 教育課程の期毎の見直しでは、各学年の現在の幼児の姿を丁寧に振り返ることにつながった。それを教員全員で共有することにより、学びを支える教師の援助や環境構成について共通理解ができた。</li> <li>・ 約180名の参加者があった。参加者と共に学び合う機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、幼児の学ぶ姿や保育を見る視点を基に教育課程の再構成を行っていく。</li> <li>・ 今年度考えた「学ぶ姿」の図を友達の存在、教師の援助、環境構成を踏まえた内容に改善していく。</li> <li>・ たくさんの参加者があり活発な協議ができた。参加者からも研究内容が理解できたというアンケート結果を得ることができた。次年度も継続していきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程にかもした雰囲気を表しているのが本園の特徴だと思う。それを前面に出し、学びの姿をどう見るか、深めていくかを発信するとよいのではないかと。</li> <li>・ 研究会では参観者が環境や教師の援助の在り方を学ぼうとしている姿が見られた。研究会で成果を発表することは公立校に還元できていたのではないかと。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本園の教育課程の特徴であるかもした雰囲気や幼児の学びの姿を捉えて、新しい教育課程でも大切に表していきたい。</li> <li>・ 研究会を継続することによって、幼児の主体性をどう見取っていくかや主体性を大切にする環境や教師の援助について、継続して発信していきたい。</li> </ul>

学校教育目標	「すこやかに あたたかく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	2 安全・安心な園づくり

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の安全に関する意識を高め、安全・安心な園づくりに取り組み、SPS（セーフティプロモーションスクール）認証を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで取り組んできた安全に関する取組を検証し、SPSの指標に基づいて、中期目標・中期計画を設定する。</li> <li>特に災害安全に重点をおき、幼児対象の防災体験会や職員対象の防災研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平野五校園とも連携し合同避難訓練や職員対象の防災研修会を実施した。近隣の学校と連携することでより幼稚園として安全教育に対する意識を高められた。また、その取り組みをSPSの指標でまとめることにより、SPSの認証を受けることができた。SPS認証式には文部科学省、大学、保護者、子どもが共に参加し、より安全な幼稚園を目指して取り組もうということを再確認できた。</li> <li>防災体験会や避難訓練、幼児対象の交通安全教室、防犯教室を行うことで、年間を通して安全に関する意識を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPS認証期間は3年である。この取り組みが継続できるよう、防災体験会等検証を繰り返し、取り組みを深めていきたい。</li> <li>日頃から警察や消防と連携することにより、有事に連携がもちやすくなると思われる。これまでの連携を継続しながら、さらに連携を深めたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPSの認証については大教大から認証されていることにとどまらず、今後どう公立園に安全な保育について伝えていくのかということが大切ではないか。</li> <li>防災のとりくみについては継続していくことが大切ではないか。今やっていることに胸をはって発信していくことが必要だと感じる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPSの認証については今回、平野五校園で認証をうけることができた。今後は地区として認証を受けることができたら、と考える。五校園で地域の防災に役にたてるように取り組んでいきたい。</li> </ul>

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	3 開かれた園組織運営

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との連携を密にし、園運営への参画の意識を高めてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA 活動について誰でもが参加しやすく、継続しやすい取り組みをしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA 役員との話し合いを積極的に行い、誰でもが参加しやすいPTA 活動を目指した。各委員会が企画した活動にできる時にできる人が参加し、参加しやすい雰囲気が出た。</li> <li>話そう会でPTA 活動の在り方を議題に話し合った。時代に合わせて変わっていくことで、持続できるPTA 活動でありたいと、保護者と共通理解することができた。PTA 活動を通して、園の教育方針を理解したり子育てに楽しさを感じたりすることにつながったのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後はPTA 活動のみならず、園の運営について保護者と共に話し合える機会をつくっていききたい。</li> <li>保育参加、話そう会などの機会を有効に使い、幼稚園での生活を通して子どもたちに育まれていることを、保護者に伝えていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの結果から見ても、保護者が子育てが楽しいと感じていたり、積極的にPTA 活動に参加したいと感じているのが分かる。子どもの学びを保護者にも伝えていくことが園の活動に保護者も参画してもらうことにつながるのではないかな。</li> <li>保育参加の取り組みは園の方針を理解していただくよい取り組みだと思う。自園でも取り入れていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も時代に合わせたPTA 活動の在り方を考え、保護者と話し合う中で、子どもたちが豊かに生活できる園運営の在り方を考えていきたい。</li> </ul>

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	4 教育実習の指導充実

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの深い教育実習の在り方を探る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、実習ノートの指導の仕方や学生同士の学び合いの機会を増やすなどした。</li> <li>・クラスの実習生の指導にとどまらず、全学生を全教員で指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導を受けた内容を実習生が自分でまとめる機会となり、学びは深まった。また、学生同士の話し合いの機会を多く持つことにより、学生同士の学び合いにつながった。</li> <li>・他学年の実習生の悩みを全教員で共有することにより、いろいろな見方で指導することにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生自身が自分で指導を受けたことを記入することが今後も必要である。</li> <li>・実習生の指導の状況をできるだけ早く、全教員で共通理解することにより、より効果的な実習生の指導につながっていくのではないかな。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生もいろいろな指導者と出会うことは大切である。</li> <li>・実習中に子どもに意識が向き、子どもと遊べるのが大切だと思う。知識だけで分かったつもりにならずに、子どもたちから学ぶことが大切ではないかな。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生には子どもと過ごす心地よさを感じ、子どもと存分に遊ぶ楽しさを感じるように指導していきたい。</li> <li>・教師とはどのような存在か、大学と連携しながら実習生が学ぶ機会をつかっていきたい。</li> </ul>

